2026全日本選抜木島平サマーノルディック大会



長野県出身の2名がスプリント種目で快挙！

令和８年９月１９日(土)から２１日(月)までの間、木島平クロスカントリー競技場（長野県）において「２０２６全日本選抜木島平サマーノルディック大会」が実施され、クロスカントリースキー班の**坂井冠太**(さかいかんた)２等陸曹以下３名が出場し、初日フリー、２日目クラシカル及び最終日スプリントの３種目に出場し、スプリント種目において男女で優勝の成果を収めた。本大会は国際スキー・スノーボード連盟(ＦＩＳ)及び全日本スキー・スノーボード連盟（ＳＡＪ）公認の大会であり、来季の強化指定選手選考に必要なＦＩＳポイントが獲得できる重要な大会である。スプリント種目は男女ともに１.３kmのコースで行われ、予選上位３０名が６名一組でスタートし、各上位２名と３位以降のタイム上位２名が準決勝、決勝に駒を進めて順位を争う。



一般男子スプリント種目１.３kmで優勝した**森稟桜**(もりりお)陸士長は、冬季五輪に出場した強豪選手が多数いる中、初日のフリー種目で１０位、２日目のクラシカル種目において９位に入賞して最終日のスプリント種目に臨んだ。予選をトップと０.８１秒差の２位で通過すると、準々決勝、準決勝をトップでフィニッシュし決勝進出を決めた。オリンピアン３名を含む激戦の中でも、森士長は今年８月にスウェーデンで行われたローラースキーワールドカップ、スプリント種目の８位の成果を遺憾なく発揮し一度も先頭を譲ることなく圧巻の勝負強さで優勝を決めた。激戦を制した森士長は試合後「地元の木島平で優勝することができて嬉しい。冬に向けて体調と怪我に気をつけて頑張る。」と喜びを語った。

一般女子スプリント種目１.３kmで優勝した**中島果歩**(なかじまかほ)２等陸曹は、予選を４位で通過した。準決勝では、２位と０.５秒という僅差で突破、続く準決勝では同タイムでゴールし決勝進出を決めた。決勝はスタート直後２番手につけるも６名が密集しながらゴールに向かうというレース展開になった。２番手のままゴールエリアに帰ってくるとゴール直前のストレートで数名の選手が横一直線の状態だったが、中島２曹が頭ひとつ抜け出しＳＡＪ強化指定選手らを抑えて０.３秒という僅差の勝負を制し優勝を決めた。表彰式で最高の笑顔を見せた中島２曹は大会終了後「地元の長野県で優勝することができてよかった。応援が力になった。」と感想を述べた。




会場に大きく響き渡る声で応援する
冬季室長の穴澤２佐と総務班長の元山１尉



今年度からクロスカントリースキー班の監督に上番した**柏原暢仁**(かしわばらのぶひと)１等陸尉は３日間の大会を「初日・２日目ともに成績が伴わず苦しいチーム状況だったが、最終日に男女共に優勝することができ、世界選手権出場権獲得に向けて明るい材料となった。今大会で各選手の課題が明確になったので練習を積み重ね、冬に向かっていく。」と振り返った。